

海外在住のキュレーターを対象に 「キュレーターレジデンスプログラム 2027」の募集を開始

一般財団法人森現代芸術財団（Mori Contemporary Art Foundation／MoriCAF）は、日本の現代美術の国際的な発信を担う海外在住のキュレーターを対象とした「キュレーターレジデンスプログラム 2027」の公募を開始いたします。

本プログラムは、海外を拠点に活動する優れたキュレーターを日本に招聘し、日本各地のアーティストや美術館、ギャラリーなどでのリサーチや交流の機会を提供するものです。日本の現代美術への理解を深めるとともに、国際的なネットワークの構築や新たな展覧会・研究・協働につなげ、日本の現代美術のさらなる国際的な発信を目指しています。

本プログラムの選考を行う国際選考委員は、世界各地の美術館の館長で構成されている点が大きな特徴です。2027年度は新たな委員を迎えるとともに、一部の委員が継続して参画する体制のもと、国際的かつ多様な視点から選考を実施します。

初年度となる「キュレーターレジデンスプログラム 2026」の採択者が今年2月以降、順次来日し、日本各地でアーティストへのスタジオビジットや美術館・ギャラリーの調査、美術関係者との交流を重ねています。2027年1月には、ポーランドのザヘンタ国立美術館（ワルシャワ）で長年にわたりキュレーターを務めたマリア・ブレヴィンスカ氏も来日を予定しています。本プログラムは、日本と海外の美術関係者をつなぐ国際文化交流の機会として、新たなネットワークを育みつつあります。

MoriCAFは引き続き日本と海外の美術関係者をつなぐ国際的な交流の機会を創出するとともに、日本の現代美術のさらなる発信と発展に貢献してまいります。

国際選考委員（2027年度）

本プログラムの選考を行う国際選考委員は、世界各地の現代美術シーンを牽引する美術館の館長で構成されています。

※ 掲載順は、選考委員長を除いて姓のアルファベット順



**サム・バルダウィル
ティル・フェルラート**
ハンブルガー・バーンホフ現代美術館
共同館長

Photo courtesy: Taipei Fine Arts Museum



クリストフ・シェリックス
ニューヨーク近代美術館 館長

Photo courtesy: The Museum of
Modern Art, New York, 2021.
Photo: Peter Ross



ローラン・ル＝ボン
ポンピドゥー・センター 総裁

Photo courtesy: Centre Pompidou, Paris



スーハニャ・ラフェル
M+ 館長

Photo: Lok Cheng, M+, Hong Kong



ユージン・タン
ナショナル・ギャラリー・シンガポール
シンガポール美術館 館長

Photo courtesy: National Gallery
Singapore



片岡真実
森美術館 館長、選考委員長

Photo: Shintsubo Kenshu

応募概要

募集対象

日本国外に居住し、現代美術分野におけるキュレーションの実務経験を5年以上有するキュレーター（年齢・国籍不問）

募集人数

3～4名

滞在期間

2027年4月から2028年3月のうち、1か月～3か月（90日間以内）

応募方法・詳細

応募条件、提出書類などの詳細については、MoriCAF ウェブサイト（<https://mori-caf.jp/en-information/>）をご覧ください。

応募締切

2026年10月31日 18:00（日本時間）

お問い合わせ

一般財団法人森現代芸術財団（MoriCAF）事務局：黒岩・宮原

メール：residence@moricafe.jp